

(国語科)

## 生きてはたらくことばの力を育てる ～『伝え合う力』を育てるための学習指導の工夫～

大阪市立西中島小学校 研究部

### 1. はじめに

本校は全ての学年が単学級の小規模校である。児童は、明るく元気で意欲的に活動し、学習面でも、友達と仲良く関わりあいながら、楽しく学習に取り組むことができている。しかし、自分の意見をはっきりとわかりやすく伝えたり、自分の力で問題を解決したりすることに関してはまだ十分な力が育っていない。クラス替えがなく、同じ集団で過ごすことが多いため、言葉できちんと表現しなくても「なんとなく」分かり合える関係ができている反面、言語による伝え合いが十分でないという傾向がみられる。

このような実態から、本校では昨年度より、「生きてはたらくことばの力を育てる」を研究主題に掲げ研究を進めていくことにした。国語科や総合的な学習の時間、道徳や外国語活動などさまざまな教科・領域のなかで、言語力の育成を目指し、学習形態、学習展開、効果的な場の設定、指導・支援の方法、評価などについて研究を進め実践を積み重ねてきた。「話し方がよくわからない」「間違うと恥ずかしいから発表したくない」などと否定的な考えから話し合い活動に消極的であった児童も、1年間の積み重ねの結果「楽しく話し合うことができる」と答えるようになってきた。

しかし、話し合うことの「楽しさ」を感じるようになったものの、『伝え合う力』が十分についたとはまだまだ言いがたい。自分の考えを表現する、相手の思いを汲み取る、そして互いに意見を練り合わせ高める力は、生きていくうえでとても重要である。今年度は、研究教科を国語科に絞り、どの子にも確かな『伝え合う力』を育てていくことができるよう、さらに研究を進めていきたいと考えた。

### 2. 研究の内容

#### (1) 研究の視点

- ① 基礎・基本の力の育成
- ② 児童が興味・関心をもつ学習活動の場の工夫
- ③ ノートの書き方・ワークシートの工夫
- ④ ユニバーサルデザインを意識した学習活動の工夫

#### (2) 実践内容

- ① 話し方のスキルアップを目指した実践

学年の発達段階に応じた「話型」「声の階段」を全教室に提示した。スピーチや話し合い活動の学習では、児童の実態に即した話し方の「ひな型」を工夫した。

- ② 語彙力アップを目指した実践

語彙力を増やし言語感覚を豊かにすることを目的に、朝の学習で視写に取り組んだ。また、全校で俳句・川柳づくりに取り組み、学校行事の場にも生かす。川柳掲示板を作り、児童の作品を常時掲示した。

- ③ 国語科における授業実践

4つの研究の視点をもとにして、授業の工夫・改善に取り組んだ。

### (3) 実践例

#### ◆1年「すきなもののクイズ」をしよう（東京書籍 1年下）

- ・ 導入でパワーポイントを使ったり、活動前に教師と児童で活動実演を取り入れたりとすることで、どの児童も活動を視覚的に理解することができた。
- ・ 前時までの掲示物を教室に常に掲示していくことで、児童がいつでも学習を振り返ることができた。
- ・ 「食べ物」は赤、「生き物」は青、「その他」は黄とクイズの種類ごとに異なった色の画用紙にクイズカードを貼った。また、ヒントを考える時の観点を同じ色分けで掲示物として教室に常に残していた。そうすることで、質問をする内容に困ると、相手のカードの色を見て、同じ色の掲示物をヒントに質問を考える事ができた。

#### ◆5年新聞記事を読み比べよう（東京書籍 5年）

- ・ 活用する場面で、一般の新聞記事を比較することは5年生にとって難しいため、教材を自作して学習内容の定着を図った。学校行事として体験したことを題材を選んで教材を作ったことで、学習意欲の喚起につながった。
- ・ どの時間のワークシートも、左右に常に二つの記事が並ぶ形で配置し、児童が見比べやすいよう配慮した。
- ・ 二つの新聞記事を読み比べる学習では、共通点には赤、相違点には青で色分けする活動を取り入れ、読み取った事を視覚的に整理することができた。

### 3. 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

- 「話型」や「声の階段」を掲示し、常に児童の目に触れるようにすることによって、場に応じた分かりやすい話し方を意識するようになった。また、聞く態度の向上にも繋がった。
- 話し方の「ひな型」を児童の実態に合わせて示すことで、多くの児童が自信をもって話し合い活動に取り組むことができるようになった。
- 全校掲示板を活用し、児童が作った川柳を掲示したり、全校遠足で、たてわり班で川柳をつくるというポイントを設定したりすることで、楽しく言語活動を行うことができた。
- 教室の壁面に、前時までの学習の流れがわかるような掲示物を常時掲示しておくことで、児童はそれまでの学習内容をすぐに思い起こすことができ、スムーズに学習活動に入ることができるようになった。
- 学習活動の場や題材を工夫することで、児童の「やってみたい」という意欲を強く喚起することができ、学習に対して前向きな姿勢が生まれた。
- パワーポイントや掲示物をかつようすることで、視覚的に情報を児童にあたえることができ、学習内容の理解の手助けとなっていた。

#### (2) 今後の課題

- 基礎・基本の力の育成とともに、「どの子もが力を伸ばすことができる」学習の場をつくるという観点を忘れずに、研修を深め、指導の工夫・改善を図っていく。
- 視覚的な支援は児童の学習活動に非常に効果的である。ICT 機器の活用法の研究・研修をさらに深め、効果的に授業に活用できるようにする。